

## ビジネス・マッチング部会

### SIIA 2020年度 事業総括会議 討議記録シート 1/2

#### 今のSIIAに不足しているものは？ (Why)

- ・ビジネスマッチング部会は、会員相互及び地域との交流を深め新たなビジネスの機会創生を図る機会を増やすことが目的なので、まずは会員企業の「わが社の一押し」を充実させて会員相互の理解を深めた上で、行政・商工会議所と連携し、地元の「中小企業のためのDX」推進に向けた課題解決に関する具体的な施策を進めるべき
  - ・SIIAの活動に参加することで、
    - ・具体的な案件が創出された
    - ・こんな商談の獲得に結び付いたと、思えるような実現結果の共有
  - ・ネームバリュー・・・セミナー等を開催するも集客力にかけると内輪の活動になりがち
  - ・発信力・・・会員企業の所有する技術の発信、紹介が十分でない
  - ・シンボル・・・会員企業が交わる協会としてのリアルな場所がない(会員サロンのようなイメージ)
  - ・SIIAの団体としての強みは何か、会員が理解しているのか。\*
- 企業のためのDX」、DX自体が広い概念であるため、何らかの形に絞ることが必要
- ・会員各社のビジネス機会の増加という観点で見ると、将来的には直接的なビジネスにつながる受注がSIIAを通じて受けるようになるのが理想的。
  - ・現段階ではそこに近づけるためには、SIIAの存在価値が多くの方に知られる必要があると考えられる。
  - ・本会としての知名度を上げるため、その事業内容をマスコミを通じて広く広報することが必要ではないか。
  - ・外部へのアピール・・・HPでPRしても今は中々見てくれない。SNS活用も含めたうえでの活動のアウトプットが必要

・「中小

#### 今後のSIIAのありたい姿は？ (How)

- ・中小企業が抱える課題を行政・商工会議所と共有し、訪問相談や相談受付窓口の開設する
- ・ICT人材が不在の中小企業に対して、ICT導入にセカンドオピニオン的立場でのコンサルティング体制の確立
- ・中小企業が抱える課題をヒアリングして、実情に合わせた情報リテラシーに関するセミナー開催
- ・地域IT企業の共同体として、各社の得意技を活用した協業を生み出す活動を主体的に行う
- ・エンドユーザーの方々に寄り添った活動の企画・実施
- ・地域の民間・文教向けのITイベントに率先して参加できるノウハウと行動力
- ・静岡市民生活の質向上に資する情報環境整備において、SIIAが産学官連携の産をリードする立場で貢献している
- ・行政、教育機関から頼られる存在になる
- ・会員企業によるノウハウによる、様々な課題を解決できる団体である
- ・DXに悩む企業に対し、小さな入り口などを紹介したり、成果を出している企業の見学
- ・SIIAは何ができる会なのか、メンバーはどのようなことが解決できるのかを明示されている。
- ・SIIAと言えば、このような組織だと誰もが認知している。
- ・会員相互が活発な情報交換により、より高度な開発が可能である。
- ・行政サービスのデジタル化について、手段方法について静岡市から指名される。
- ・ICTに困ったときに、まずSIIAに相談しようとおもわれる立場

そのために3年後までに何をやるか？「アクションプラン(骨太の施策)」 (What)

【課題】

- ① 対外アピール
- ② 活動の情報発信
- ③ 交流の活性化

【プラン案】

- ・ 中小企業のDXの推進(商工会議所等とのタイアップ)
  - 商工会議所に相談に訪れる中小企業向けIT診断(足りないものをコンサル)
  - 商工会議所会員とSIIA会員との勉強会(Kintone cafe等の研究会など)
- ・ SIIAの認知向上
  - SIIA会員企業の自慢、強みのアピール(WEB等)
  - 会員企業がアピールしたい商品を持ち寄って発表する場を設ける
  - デジタル育成資格の認証機関になる(法人だけでなく個人ともマッチング)
  - 協業による実案件の受注とその事例紹介